

# 日本語を外から眺める

平成15年7月5日(土) 14時から16時

国立国語研究所 1号館5階講堂

主催 独立行政法人 国立国語研究所

後援 北区教育委員会・板橋区教育委員会

今日のフォーラムでは、外国の人たちとの日本語によるやり取りを取り上げます。外国の人たちの目を通して、日本語によるコミュニケーションの難しさ・面白さについて考え、改めてふだん何げなく使っている日本語を見詰め直す、つまり「日本語を外から眺める」機会にしたいと思えます。

【14時】

開 会

ごあいさつ

国立国語研究所長 甲斐 睦朗

【14時10分】

日本語の勉強って楽しい？

国立国語研究所 金田 智子

【14時40分】

違和感は考えるためのきっかけ

国立国語研究所 宇佐美 洋

【15時10分】

英語(アメリカ)話者からみた日本語の誉め言葉

ミネソタ大学・国立国語研究所 ポリー・ザトラウスキー

【15時20分】

休 憩

【15時35分】

質問コーナー

質問票(小さい紙)に記入して、係の者にお渡してください。

【16時】

閉 会

水色のアンケート用紙に記入して、係の者にお渡してください。

- ※ 御用の方は、係の者までお願いします。黄緑色の名札を付けています。
- ※ 手話の見える位置は限られていますので、席を譲り合ってお使いください。
- ※ 洗面所は階段の裏手にあります。段差のない洗面所は3階にあります。
- ※ 国立国語研究所の刊行物を展示しています。どうぞ御覧ください。

「日本語の勉強って楽しい？」

金田智子（国立国語研究所）

クイズ 1: 日本語を外国語として学習している人数の多い順にならべてみてください。

- 1.中国                      2.韓国                      3.タイ                      4.オーストラリア

クイズ 2: 国内には日本語学習者がどのくらいいるのでしょうか。

- 1.約 3 万人                      2.約 13 万人                      3.約 30 万人                      4.約 130 万人

クイズ 3: 日本や海外で市販されている日本語教科書の名前にないものはどれでしょうか。

- 1.げんき                      2.ようこそ                      3.はい                      4.日本語ペラペラ

I. 「誰が何をどのように学ぶか」

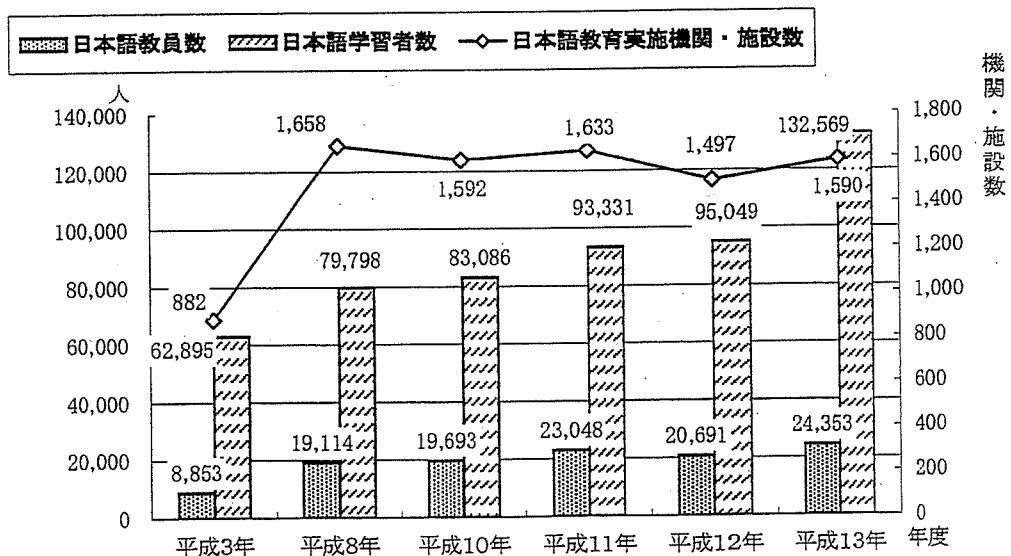
1. 日本語を学ぶ人々:

<国内で市販されている教科書の対象>

留学生、ビジネス関係者、技術研修生、短期滞在者、子ども、  
特に対象を定めないもの（「総合」）

2. 日本語学習者数の増加:

<国内>



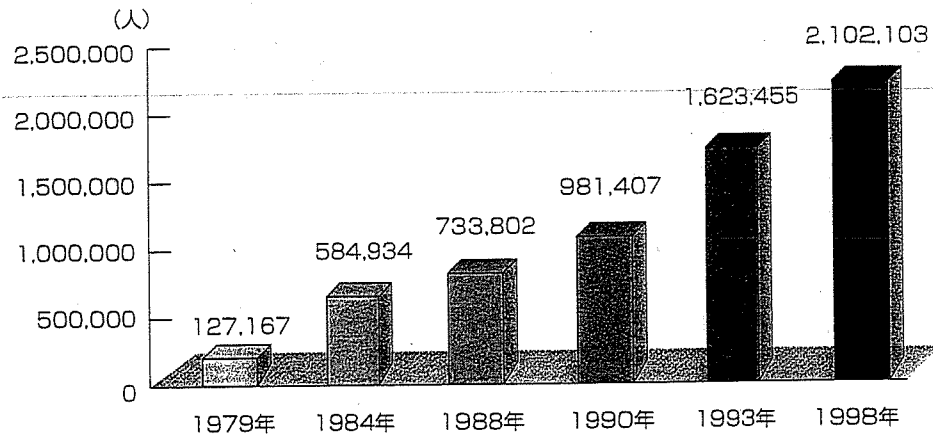
文化庁国語課「平成 13 年度国内の日本語教育の概要」（平成 14 年）

\*この 10 年間に、国内の日本語学習者が 2 倍以上に増えたことがわかります。

[参考]外国人登録者数：約 178 万人（総人口の約 1.4%） 法務省入国管理局「平成 13 年末現在における外国人登録者統計について」（平成 14 年）

<海外>

学習者数



国際交流基金日本語国際センター『海外の日本語教育の現状  
－日本語教育機関調査・1998年－』（平成12年）

- \* 1988年からの10年間で、海外の日本語学習者が約3倍に増えたことがわかります。
- \* 近年、海外では小学校、中学、高校などで日本語を学習する人が増えています。

3. 学習目的・動機：

日本語に対する興味、日本・日本文化に対する興味、生活・職業上の必要性、文化理解、情報収集、旅行、外国語学習の必要性、教養、等

4. 学習内容・方法：教科書を比べてみましょう

<教材例>

『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』：国内外で広く使用されている教科書。対象は一般社会人。

『はい、いま!』：オーストラリアの中学校、高校で使用されている教科書。

『日本語ペラペラ』：韓国の外国語高校で使用されている教科書。

<たとえば「まっすぐ行ってください」の場合>

『みんなの日本語初級Ⅰ』 p.115、タクシー運転手に指示する場面

カリナ：梅田までお願いします。

運転手：はい。

カリナ：すみません。あの信号を右へ曲がってください。

運転手：右ですね。

カリナ：ええ。

運転手：まっすぐですか。

カリナ：ええ、まっすぐ行ってください。

あの、花屋の前で止めてください。

運転手：はい。1,800円です。

カリナ：これをお願いします。

運転手：3,200円のお釣りで。ありがとうございました。

『はい、いま!』 p.58、道を聞く・教える場面

A：すみません、げんばくドームはどこですか。

B：げんばくドームですか。ええと…まっすぐ行って、はしをわたってください。そして、かどを左にまがって、まっすぐ行ってください。げんばくドームは左がわにあります。

A：どうも。

『日本語ペラペラ』 p.81、道を聞く・教える場面

ジ ニ：あの、すみません。道を教えてほしいんですけど。

おまわりさん：どこへ行くんですか。

ジ ニ：高屋デパートです。

おまわりさん：それなら、この道をまっすぐ行ってください。

2つめの交差点を右に曲がると、もう入口ですよ。

ジ ニ：わかりました。ありがとうございます。

おまわりさん：じゃあ、気をつけて。

- \* 学習の内容はよく似ていますが、実際の教科書を見てみると、内容の示し方、学習の方法は大きく異なるようです。色彩豊かな絵をふんだんに使い、学習する項目が絵の中に埋め込まれているものもあれば、挿絵は補助的な役割であり、学習する項目をページの中心にすえているものもあります。
- \* また、教科書にはことばの使い方を知ることがを重視するもの、文化的な知識、日本についての知識などを学ぶことを重視するものもあります。
- \* 高校生向けに出版されている『はい、いま!』や『日本語ペラペラ』には、以下のような友達同士で使うことばも多く紹介されています。学習者の背景、学習目的などによって、教える内容は異なります。

『日本語ペラペラ』 p.82

ジニ：ねえ、りさ。道を教えてほしいんだけど。

りさ：どこへ行くの。

ジニ：高屋デパート。

りさ：それなら、この道をまっすぐ行って。

2つめの交差点を右に曲がれば、もうデパートの入口だよ。

ジニ：わかった。ありがと。

りさ：じゃあね。気をつけて。

## II. 「日本語の勉強って楽しい (の) ?」

### 1. 学ぶときに困難を感じる(違和感を持つ)こと

—コミュニケーションを停滞させるものは何か

- (1) どうして「おまえ」だなんて呼ばれるんだ!
- (2) 「何もありますけど」と言ったけど、ずいぶんたくさんあるなあ…。
- (3) 「おいしい、おいしい」って、言わなきゃだめ?
- (4) 「おはし使えるんだ!」って、ほめてるつもり?

### 2. 困難を感じたり、違和感を抱いたりしたときに、学習者はどうするか

- ① 放置する
- ② 違いを理解する
- ③ やりかえす
- ④ 自分の方法を変えない

- \* 日本語を外国語として、または第二言語として学習する場合、日本語の表現やその意味、意図を理解することができても、感覚的・感情的に受け入れられなかったり、日本人と同様の行動を取れなかったり（取りたくなかったり）する場合があります。
  - \* 日本の中での日本語によるコミュニケーションだったとしても、あえて自分が別の言語・文化でもともと持っている方法（表現、行動）を変えない人もいます。たとえば、日本語を学習する人の中には、「何もありますが」と言わず、「おいしい料理を準備したから」と言って食事を出したいと思う人がいます。「何もありますが」という表現について、謙虚さよりも、不誠実な態度のほうに注意が向けられるからです。日本人の中にも、同じような考えを持つ人もいます。また、「おいしい料理を準備したから」という表現を、率直な表現だと肯定的に評価し、自分でも使ってみようと思う日本人もいるでしょう。
  - \* 日本語を第二言語として、あるいは外国語として学習する人は今後も増えていきます。彼らが日本語に対してどのような意識や違和感を持つのか、彼らがどのように日本語を使うのか、などを知ることによって、日本語を今までとは別の視点から眺めることができます。また、自分自身が慣れ親しんだ日本語についてあらためて考え、使い方を改めてみようと思う機会にもなるかもしれません。
- 今後、日本語を母語とする人と、日本語以外の母語や文化背景を持つ人によって日本語が共に使われることにより、日本語はより一層豊かなものになるのではないのでしょうか。

#### <クイズの答え>

Q1: 韓国、オーストラリア、中国、タイ

Q2: 約 13 万人

Q3: すべてあります。その他に、「はい」「きもの」「未来」「学校生活」「高校生活」「おべんとう」などもあります。

## 違和感は考えるためのきっかけ

宇佐美 洋  
(国立国語研究所)

### 1. 違っているようでも、実は似ている？

国により文化により、「あいさつ」のしかたはいろいろです。日本ですと、頭を下げる、すなわち「お辞儀」という行動があいさつのしかたとしては一般的ですが、国によっては頭は下げず、お互いの手を握り合う、つまり「握手」という方法が好まれることもあります。腕を広げて抱き合う、という方法がとられることもあるでしょう。

日本人の感覚からすると、公衆の面前で抱き合う、などということはえらく恥ずかしいことのように思えます。逆に、頭を低く下げる「お辞儀」というあいさつが、非常に卑屈なものと感じられてしまう国もあるかもしれません。

しかしこれらのあいさつ行動は、表面的にそれぞれかなり異なった行動であるように見えますが、その裏側には同じような考え方がある、とみることはできないでしょうか。それは

「自分は相手に害を与えない人間であることを見せる」

ということです。

お辞儀をすると、自分の後頭部という「弱い部分」を相手に見せることになります。頭を下げている間に相手に後頭部を殴られてはひとたまりもありません。逆にいえば、そのような状態で相手に危害を加えることはできないでしょう。

握手をするためには手のひらを、抱き合うためには両腕を開いて、相手に見

せることとなります。そのことは、相手を傷つける武器のようなものは何も持っていない、ということの表明であるとみることはできないでしょうか。

その他、いわゆる「礼儀にかなっている」とされる行動には、「私はあなたに害を加えませんよ」ということの表明ではないかと思えることがたくさんあります。「あいさつの時にはかぶり物（帽子や笠）をとる」ということも、お辞儀と同じく「弱い頭部を相手に見せる」、ということでしょうし、「食事の時は両手、少なくとも片手をテーブルの上に出しておかねばならない」というヨーロッパのテーブルマナーも、「テーブルの下で同席者に危害を与えることはしない」ということを態度で示しているのだと見ることはできるでしょう。

このように、「礼儀」の表現方式は国により文化により多種多様なのですが、よくよく考えてみると、同じ人間である以上、異なった振る舞いの裏側に意外と共通性もあるのでは、ということが見えてきます。

そこで、他の人の行為に対し非常な違和感をもったとき、こんなふうに考えてみてはどうでしょうか。「ひょっとしたらこの行為の裏側には、実は自分にもよく理解できる共通の考え方が存在するのかもしれない」と。まさに「違和感」は考えるためのきっかけ」なのです。

## 2. 人づきあいにおけるジレンマ

他人との付き合いをうまくやっていくための「秘訣」は、いろいろありますが、突き詰めてみると結局次のふたつのことにまとめられるのではないのでしょうか。

相手に働きかけ、気持ちよくさせる

相手に不愉快な思いをさせないようにする

しかしこのふたつは、よく考えてみるとお互い矛盾することです。相手を気持ちよくするためには相手に近づいていく必要がありますが、しかしやり方を一歩間違えると、相手を不愉快にしてしまうかもしれない、という危険をはらんでいます。かといってその危険を避けるために相手に近づかないようにすれば、相手を気持ちよくさせることもできません。あちら立てればこちら立たず。なかなかむずかしいものです。

ふたつの矛盾する気持ちの間で、どのあたりに「落としどころ」を見つけるか、あるいは、どういう場合にどちらを優先するか、ということは、国や文化によって違っているように思えます。しかし、人付き合いをうまくやっていくための基本的な考え方が上に挙げたふたつであるということは、どの国でも、どの文化でも、実は共通なのではないでしょうか。まずこの共通点をおさえることはとても大事なことでしょう。

### 3. 「ほめる」ってどういうこと？

「ほめる」という行為は、「相手のいい点を積極的に認め、指摘することによって、相手を気持ちよくさせる」ということだといえます。つまり上に挙げた考え方ふたつのうち、ひとつめの考え方にしがった行動だといえるでしょう。

一方でこの行為は、「相手に対して評価をください」ということと結びついてしまうこともあります。そのことは、自分の方が相手より高い立場にある、ということを示すことになり、相手を不愉快にしてしまうこともあるでしょう。

日本ではどちらかというと、「ほめる」という行為に関しては「上の者が下の者を評価する」という側面の方が、どちらかというと強く意識されているかもしれません。したがって、目下の者が目上の者を「ほめる」ということはよくないことと一般には考えられているようです。一方で国や文化によっては、「相手を気持ちよくする」という側面の方が強いこともあります。そういう国から



来た人が、日本人の先生を不用意にほめてしまって不愉快にさせてしまう、ということも時折あるようです。

でも、「日本では目上の人にはほめてはいけない」と、単純に言ってしまっているのでしょうか？ こういう場合なら、こういうやり方ならほめても OK、ということがあるのではないのでしょうか？ ほめて OK、ほめてダメな理由は、いったいなんなののでしょうか？

今日私はお話の中で、こういうことについて考えるための材料をいろいろ提示しようと思っています。こういうことにマニュアル的な正答はありません。ぜひみなさんといっしょに、あれこれ考えてみましょう。

英語（アメリカ）話者からみた日本語の<sup>ほ</sup>誉め言葉  
ポリ・ザトラウスキー  
(ミネソタ大学・国立国語研究所)

1 <sup>ほ</sup>誉められて<sup>うれ</sup>嬉しいと思う時期。

【会話例1】 (N=日本人の女性、A=アメリカ人の女性)

Aの専攻(日本語、美術)

(...)

1 N: 学//校—

2 A: 学校へいきました。行き//ました。

3 N: は—ん。//{笑い}

4 A: {笑い}

5 N: あ、でも、日本語うまいですね。

6 A: いえ、いえ。{笑い}

7 N: いや{笑い}、ほんと—。

8 A: う—ん、「うまい」は？

9 N: 上手。

10 A: あ—、いえ、三年生、M大学の三年生ですけど。

(Kato [Nakai] 1999:関連資料)

2 日本人を<sup>ほ</sup>誉めてみようと思う時期。

【会話例2】 (N=日本人の女性、A=アメリカ人の女性)

日本の焼き物

(...)

1 A: あの、日本の—、(沈黙 1.6) ceramics は有名です。

2 N: うん、ですよね。

3 A: 上手。{笑い}

4 N: {笑い}

5 A: 上手と思います。

6 (沈黙 0.9)

7 N: え、じゃ—、日本のその—、焼き物に興味があって、

8 N: 日本に行くんですか？

9 A: うん。

10 (沈黙 1.1)

11 N: は—ん。

12 A: はい。

アルバイト

13 A: あの—、(沈黙 4.5)Mで

14 N: うん。

15 A: アルバイトが、ありますか？していますか？

(Kato [Nakai] 1999:関連資料)

- 3 <sup>ほ</sup>誉められて馬鹿にされていると思う時期。  
→日本語の習得度合いの指標。

【会話例3】 (N=日本人の女性、A=アメリカ人の女性)

Aの日本語学習歴

- 1 N: 日本語は一、どのぐらい勉強、しているんですか？  
2 A: うーん、あー、三年生です//けどー。  
3 N: 三年生。  
4 A: でも一、あー、四年ぐらい一、勉強しました。  
5 N: 日本に行ったことは一。  
6 A: あ、ありません。  
7 N: あり、ないんですか。  
8 A: はい。  
9 N: すごく、  
10 A: いいえ。  
11 N: うまいです、ほんとに。  
12 A: いいえ。  
13 N: は一。{缶を開ける}  
14 (沈黙 1.9)  
15 A: 失、いた//だきまーす。  
16 N: どうぞ。  
17 A: {飲み物を飲む}  
18 N: そうです//か。{飲み物を飲む}  
19 A: うん。{咳払い}

Nのアメリカでの生活

- 20 A: あー、どれぐらい、あーアメ、どれぐらい、アメリカに一、  
21 N: 僕ですか？  
22 N: はい。

(Kato [Nakai] 1999:関連資料)

- 4 日本人の行動を観察しようと思う時期。

- a <sup>ほ</sup>誉め言葉と話題展開。

【会話例4】 (N=日本人の女性、A=アメリカ人の女性)

文部省の奨学金

(...)

- 1 N: 奨学金、あ、文部省からの奨学金//も難しいでしょ？  
2 A: うーん。  
3 N: (沈黙 1.2)もらうのは。  
4 A: ー、  
5 A: でも一、(沈黙 2.1)九人だけ一、何だっけ一、とうぶんし、  
その文部省の。  
6 N: あーはい、はい、はい。

- 7 N: 数人？  
 8 A: 九、九人だけ一、と、登録、  
 9 N: 登録？  
 10 N: も、申し込む、申し込む、申し込むんですか？  
 11 A: 申し込む、あー申し込む、そー。  
 12 N: 申し込む。  
 13 A: 申し込んで一、三人、もらった。  
 14 N: へ-----？  
 15 N: すばらしいじゃないですか。  
 16 A: うー//ーん→。  
 17 N: よくできるんですねー。{笑い}  
 18 N: 頭がいいんですね。{笑い}  
 19 A: あー、そうです、ラッキーです。  
 20 N: あー、よかったですねー。  
 21 A: うん。

秋田での勉強（日本語、歴史、書道）

- 21 N: えー、じゃ、えっと一、秋田では一、日本語だけ？  
 (Kato [Nakai] 1999:338-339、中井 2000:160-161)

b 誉め言葉の位置と反応

【会話例5】

(P=日本人の女性、N=日本人の女性、)

Pの日本での仕事

- 1 N: あれ？日本では、なにのお仕事をやっていらっしゃったん//ですか？と  
 ころで。  
 2 P: あっ。  
 3 P: えっと一、  
 グラフィックデザインで//す。  
 4 N: あ-----すごいで//すね。  
 5 P: え-----。  
 6 N: //ふ-----ん？  
 7 P: あと一、まあ、ほか  
 のことちょこちょこやってたんですけ//ど一、  
 8 N: ふ-----ん？

(Kato [Nakai] 1999:204、関連資料)

日本語を習得する過程からみた誉め言葉

- 1 誉められて嬉しいと思う時期。
- 2 日本人を誉めてみようと思う時期。
- 3 誉められて馬鹿にされていると思う時期。→日本語の習得度合いの指標。
- 4 日本人の行動を観察しようと思う時期。
  - a 誉め言葉と話題展開。
  - b 誉め言葉の位置と反応。→隠れた文化。

## 文字化の記号

- // //の後の発話が次の番号の発話と同時に発せられたことを示す。  
(1.6) ( )内の数字は10分の1秒単位で表示される、沈黙の長さを示す。  
(1.6)は1.6秒の沈黙を示す。

## 参考文献

- Kato [Nakai], Yoko. 1999. Topic shifting devices used in Japanese native/native and native/non-native conversations. University of Minnesota: M.A. thesis.
- 中井陽子(2000)「母語話者同士及び母語話者／非母語話者による日本語会話の話題転換部に使われる要素——情報提供者の場合」韓国日本学会と日本語教育学会共催第20回国際シンポジウム予稿集 pp.158-165
- ザトラウスキー、ポリー(1993)『日本語の談話の構造分析——勧誘のストラテジーの考察——』くろしお出版